



養父市長 梅谷 馨

新春をご家族おそろいでお迎えになられましたこと、心からお喜び申し上げます。

昨年の世相を一字で表す漢字に「命」が選ばれました。選ばれた理由として、41年ぶりの男子皇族とされた秋篠宮ご夫婦のご長男「悠仁」様ご誕生というおめでたい出来事があった一方、いじめ、いじめによる自殺、親子殺人、やらせ質問、政官界汚職など、命に関わる事件や事故が多発した1年でありました。

大正末期から昭和の始めにかけて、駐日フランス大使を務めたポール・クロードルさんは、当時の日本を見て「日本人は貧しい。しかし高貴だ。世界でただ一つどうしても生き残ってほしい民族を挙げるとしたら、それは日本人だ」と語ったそうです。その「高貴な国」、「日本人の心」が音をたてて崩れていく思いが強くいたします。今こそ、日本人が古来から作りあげてきた「人」、「国家」の品格を復活させることが大切です。

養父市の人口は3万人から減少傾向にあります。兵庫県立大学の木

村教授が、2005年国勢調査をもとに県内各市町の合計特殊出生率を集計された結果、全国平均「1.26」に対し、養父市が「1.84」で県下トップという明るいニュースもあります。若い世代の皆さんが、生まれ育った地域を大切にする気持ちに感謝するとともに、それぞれの校区で地域の皆さんが、子ども達を見守っていただいていることに厚くお礼を申し上げます。

八鹿病院では、急激な医師不足により患者の皆さんに数々の不安を与えており、4月1日より産科停止という異常事態になりました。幸い小児科医・産婦人科医にお願いいただくと、ほっとしているところですが、少子化といながら子ども産めない事態を心配していただけない限りです。

また、三位一体改革、実質公債費比率の導入など国の大きな制度改革と県下市町で最低に近い財政力（税収が少ない）により、極めて厳しい行財政運営を余儀なくされています。責任ある立場の者として夕張市のようなことにならないように最大の努力をいたす所存です。そのためにも、既存の産業の振興はもとより、若者定住に力を発揮する企業誘致等を積極的に進めたいと思います。

厳しい時代ですが、養父市再興の舵取りとして力いっぱい努力いたしますので、ご支援ご協力をお願いいたします。